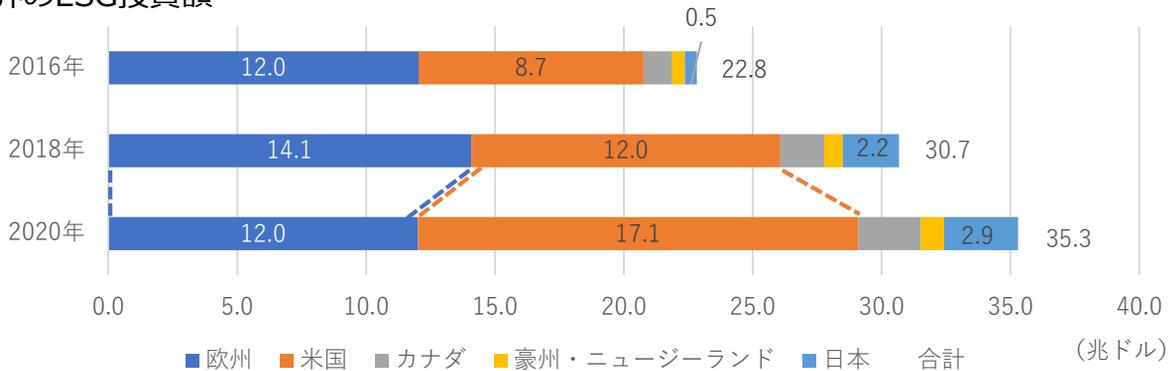


## ESG投資の拡大と定義厳格化について

### 世界のESG投資額は18年比で15%増の35兆ドルに

- ✓ 世界のESG投資が増加しています。世界持続的投資連合（GSIA）は、2020年の世界のESG（環境・社会・ガバナンス）投資額が18年比で4.6兆ドル増の35.3兆ドル（18年比+15%）だったと発表しました。気候変動などの環境問題や、人権など社会問題への関心の高まりから、世界的にESG投資が拡大しています。
- ✓ 国別に見ると、特に米国で大きく増加しており、5.1兆ドル増（同+42%）となりました。環境問題に関心が高い民主党・バイデン政権になったことで、米国でのESG投資は今後さらに拡大すると予想されます。一方、ESG投資が進んでいるとされる欧州では、ESG投資の定義が厳格化された影響で、2.1兆ドル減（同-15%）となっています。

### 世界のESG投資額



(出所) GSIA「GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT REVIEW 2020」のデータを基にちばぎんアセットマネジメント作成

### 欧州を中心に進む定義厳格化～今後はESG投資の「質」の向上が進む見込み～

- ✓ ESG投資が進んでいる欧州において、なぜESG投資の定義厳格化が進んでいるのでしょうか。EU（欧州連合）は、ESG投資に関連する、様々な制度の制定や規制強化に取り組んでいます。たとえば、2020年には、「グリーン」な経済活動と投資を分類する枠組みである、「EUタクソノミー」を公表しました。これまで投資商品や経済活動のなかで曖昧に定義されていた「グリーン」や「持続可能性」といった分類を明確にすることによって、EUの環境目標に貢献する経済活動への資金を集めることを目的としたものです。環境改善効果が伴わないにもかかわらず、あたかも環境に配慮しているかのように見せかける、いわゆる「グリーンウォッシュ」への資金流入を防ぐことも目的としています。
- ✓ 日本では、金融庁がESG関連投資信託について、「どのような基準に基づきESGやSDGsという名称をつけるは、個々の運用会社の裁量に委ねられていること」や、「ESG評価基準などに関する説明が不十分な場合が多いこと」などを問題視しています。また、「運用会社等のESG投資への取組みに関する説明の充実化や、顧客がESG関連投資信託の比較検討をしやすい環境整備を行うのが望ましい」との見解を発表しています。金融庁による、資産運用業界におけるESGやSDGsのあり方についての幅広い調査・分析の実施やモニタリング強化が今後見込まれます。
- ✓ ESG投資の定義厳格化などにより、世界のESG投資残高としての「量」の伸びはこれまでより減速する可能性があります。こうした規制強化の流れの中でESG投資の「質」が向上し、真に環境・社会・ガバナンスの向上に貢献するESG投資が拡大することが期待されます。

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料はちばぎんアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 本資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的とした上記日時における当社の意見です。投資に関する最終決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。加えて、この資料に記載された当社の意見ならびに予測は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。